

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～何が起きても大丈夫と言える地域を目指して～

未知のウイルス・災害を意識した活動のロードマップ

長期展望期（新たな地域生活）

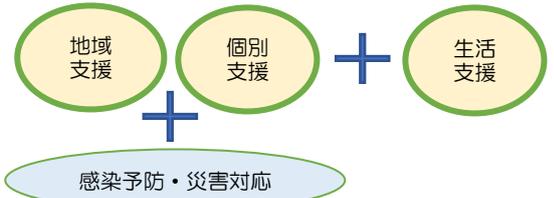
混乱期（発生直後）

- ・感染予防のための徹底した自粛生活
- ・緊急小口資金貸付等
- ・マスクづくり、個配等
- ・ニーズ把握（調査・聞き取り）等

移行期（自粛解除後）

- ・混乱期の整理（課題とニーズの関連情報収集・再確認）
- ・社協業務の再確認（地域支援、個別支援＋生活支援）
- ・知恵寄せ会議等
- ・感染予防対策を徹底
- ・地域活動再開の検討

- ・新たな地域活動に向けて、未知のウイルス・災害を意識した平常時の活動を構築する。
- ・生活、地域、精神、身体の4側面から再確認。
- ・移行期の情報を元に、協力体制を再構築。



新たな地域生活に向けた移行期に向けての状況整理

新型コロナによる「個人」の生活への影響を意識しつつ、「地域」の生活、福祉課題を捉えましょう。これは、生活支援コーディネーターだけでなく、みんなで考えましょう。

- ・地域の活動等は？
- ・気になる人はいないか？
- ・障害者や外国人、生活でお困りの方はいないか？
- ・近隣等の関係性で困っていないか？

地域



生活



- ・行政等の手続等の不安は？
- ・家族等の仕事、経済的な心配は？
- ・買い物、外出等、日常生活に困っていないか？
- ・介護サービス等の変更で支障は？

- ・新型コロナに対する不安は？
- ・人に会えないさみしさは？
- ・これからどうなるのか不安。
- ・家族の関係性は？
- ・アルコールは増えているか？

精神

身体

- ・定期受診はできているか？
- ・なんとなく調子が悪いが我慢していないか？
- ・持病が悪化していないか？

(地域福祉部作成)

情報提供コーナー

- 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

感染防止のための対策を講じつつ、全国各地で創意工夫のなかから生まれた『新しいつながり方』を収集・提供し、WEBを活用した交流等の取り組みを紹介しています。 <https://www.t-net.online/>

【発行元】（令和2年5月22日発行）

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp（担当：山下・永坂）

新型コロナ感染拡大に伴う 緊急小口資金特例貸付から感じること

緊急小口資金の貸し付けを応援しているけど、地域にはこんなに困っている人が…。これを踏まえこれからの地域づくりをしないといけない。



生活支援コーディネーター

新型コロナウイルスの影響により収入が減少した世帯に対し、生活福祉資金の緊急小口資金および総合支援資金の特例貸付が3月25日より受付開始となりました。県内では、受付開始から5月15日までの借り入れ申し込み件数は、緊急小口資金が14,414件、総額は約33億円。総合支援資金が1,836件、総額は約9億2千万円に達しています。(昨年比:特例除く 緊急小口資金202件、総合支援資金19件)

宝塚市社協：山本氏

この事業は「生活困窮」の事業担当者が主になるので本来は寄り添う福祉の対象のはずですが、今回は人数が多くじっくり聞けなかった時がある。相談に来られた方を対象にならないからと帰ってしまったことがあり、慌てて追いかけたことがあった。ここに来られたということは、なんらか困っているのでは？と思える、伴走できる職員にならなければいけない。特に気が付いた人は ①外国人②視力障害のある人③文字の読み書きできない等。
これを機に、地域調査をしてみようと考えている。お互い気にかけていることを伝えるためにアナログでの取り組み(手紙等)を考えている。

西宮市社協：音川氏

今までかかわっていた人と違いました。個人、フリーランス等がかかわっていない。そんな人も含めた地域づくりが必要。その日の暮らしに困る人も…。一部しか見えていなかった。今まで活動を一緒に行ってきた人も困っていた。コロナが明けてもこれまでと同じように活動ができるだろうか。一人よがりにならないようにしないと。でも、貸し付けで知り合い、詳しく聞くことでつながる。寄り添うことができる。今まで聞いたこともなかった職業があり、その仕事に誇りを持っておられる。私たちの役割は、いろいろな背景を持つ人に「ここに来てよかった」と思われるようにすることだと思う。



これから取り組むべき活動のために ～伊丹市社協の活動者アンケート～

新型コロナウイルスによる高齢者や児童等に福祉課題を把握し、社協の活動を検討するために、サロン・カフェ代表者、民生委員児童委員・主任児童委員、ボランティア活動者等にアンケートを行いました。

- アンケート内容
- 1.課題に感じていること
 - 2.実際に聞いた困りごと等
 - 3.自主的に取り組んでいること等
 - 4.あったらいいなと思う取り組み、情報等

【自主的に取り組んでいること】 (回答者数：135名)

電話訪問	感染予防の注意喚起	チラシ、手紙の送付	出会い時の声かけ・会話	ご自宅訪問	散歩・買物中の見守り	マスクの製作・配布
38	22	22	21	14	8	3

【あったらいいなと思う取り組み、情報等】

顔が見れる機会づくり	伊丹市内のコロナ情報	体・頭を動かすツール等	各種情報提供	ネットを活用した情報提供	コロナ詐欺に関する情報
17	17	11	9	5	5

集計結果から見えること (伊丹市社協担当者)

今回の回答者は高齢者への活動に携わっている方が多く、数字の上でも「他者とのつながりの希薄」「心身機能の低下」等が顕著でした。重要なのは、自宅にいても他者とのつながりを感じられるような要素が支援活動に盛り込まれていることだと考えています。
一方、活動者には、「感染」と「つながりづくり」のはざまの葛藤も見えてきました。今後は、「こういった配慮を行えばいいのか」といった具体的なガイドライン等を提示していく予定です。

笑顔のエピソード

学校の休校に伴い、飲食店がランチ付き(1日1000円)で学習スペースとして開放。すると、路線バスが無料送迎、精肉店が肉の差し入れも届いた。(香美町)



最近、サロンボランティアが全員の寄せ書きを持って訪問した。すると、妻を亡くした男性からお礼としてサロンボランティア全員にメロンが届いた。メロンには「ありがとう。元気もろた、うれしかった。安倍さんが10万円、あげるって言うたから受け取って」と手紙が添えられていた。(三木市)



【編集後記】兵庫県では緊急事態宣言が解除されました。今回は、この期間の社協の動きと、これからの活動に向けての動きに注目してみました。こんな時だからこそ社協だと感じました。